

「災害で活躍! アルミ缶コンロ (1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

まずは、下の写真を見ていただきたい。ビールのアルミ缶から、美しい炎が出ている。燃料はごく普通のメタノール (メチルアルコール) である。



メタノールは、小学校の理科実験や、サイフォン式のコーヒーメーカーで使う、アルコールランプの燃料である。しかし通常アルコールランプは、アルコールが芯先で気化して燃焼する「直焚き」で、火力は「弱い」。しかし、このコンロは周囲の穴から気化したアルコールガスが勢い良く出て、火力はずっと強い。



作り方は簡単だ。1個のコンロに使うアルミ缶は2個。まず、底の部分を数センチ切り取る。まっすぐ切るには、右下の写真のように、適当な高さの台に太いカッターナイフの刃を固定して、缶のほうを回して切ると良い。



もう一方の缶底には6~8か所の小孔を開ける。錐でも良いが、径2mm程度のドリルで開けるのが一番良い。真ん中にも直径2cm程度の穴を開けておく。(この良い方法がなかなか思いつかない)



中には、このようなアルミ缶の直径よりも少し小さくした、円筒を入れる。端に上下に切れ込みを入れて、接続して円筒にする。V字型の切れ込みを数か所入れて、それを下にして入れる。この円筒の外側が気化室になる。最後に底と穴のあいた蓋を接続して完成だ。